山にありて

題字・加藤豊仭名誉教授

CONTENTS

・巻頭言「創立60周年記念に向けて」― 1
　宮城教育大学同窓会会長(学長) 松岡　尚敏
・特集「新たな学生寮」～『青葉こもれび寮』誕生～ 2
　長内ののか　3
　佐々木彩乃　3
・「青葉こもれび寮の魅力」アンケート結果 ― 4
・入寮生の話 ― 5
　藤井　磨音・梅田　杏海
・男子寮の思い出 ― 6
　鈴木　晋也　6
　吉野　良一　7
　永原　啓嗣　7
・萩苑寮（女子寮）の思い出 ― 8
　金　早菜恵　8
　佐藤　京子　9
　安藤　マリ　9
・同窓会総会 ― 10
　三浦　孝教　10
　佐藤　善威　10
　玉上智江美　11
・四コマ漫画「誕生日」
　黒田　謙二　11
・同窓会　事業会計報告 ― 12
・学生活動援助金 サークル紹介 ― 13
　安達　碧・齋藤　光翼
・親子ＤＥ同窓生 ― 14
　加勢　徳寿・加勢　幸愛
・恩師は今 ― 15
　横須賀　薫
・フレッシュ先生だより ― 15
　三浦　里穂
・事務局だより ― 16
・訃　報 ― 16
・編集後記 ― 16

vol.36
発行人：宮城教育大学同窓会
仙台市青葉区荒巻字青葉149　会長　松岡　尚敏
令和７年（2025）３月26日発行　印　刷：株式会社宮城友栄社

創立60周年記念に向けて

宮城教育大学同窓会会長（学長）
松岡　尚敏

皆様、初めまして。昨年の四月から本学の第十五代学長を務めております。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、皆様もよくご存じの通り、本学は一九六五年（昭和四十年）に開学しましたので、今年二〇二五年に、めでたく創立六十周年を迎えます。人の一生で言えば、「還暦を迎える」という大きな節目の年となります。その間、本学の卒業生は教育学部だけでも二万人を超えており、教育学研究科の大学院修了生も加えれば二万二千名以上となります。そうした同窓生は、宮城県・仙台市を中心としながら、全国で活躍されております。中でも、地元の教育界においては、実に数多くの先生方が、教育の発展を支えてきておられるということは紛れもない事実です。このことは本学の誇りでもあり、強みともなっています。

開学以来六十年間、本学はどのような教育・研究および社会貢献を行ってきたのでしょうか。とてもひと言では語れませんし、同窓生が集まれば、「教育における臨床の学」「教授学」や「学生合同研究室（ゴウケン）」といった本学ならではの用語も飛び交い、時間も忘れて思い出話に花が咲くことは間違いないでしょう。

冒頭でも書きましたが、今年の秋には、創立六十周年記念式典を盛大に催す予定です。また、本同窓会では、二十年ぶりに同窓生名簿を刊行する予定で作業を進めております。この数年間は、学内で多くの建物が改築され、昨年四月には正門横に新しい学生寮も竣工しました。新しく生まれ変わった青葉山の宮教大キャンパスで、皆様にお会いできることを楽しみにしております。

特集

新たな学生寮「青葉こもれび寮」誕生

―教師を志す学生を支える学生寮の新旧秘話―

宮城教育大学に新たな学生寮が誕生した。大学正門近くに完成した寮の名前は「青葉こもれび寮」。開寮してから半年が経とうとする十月、教員を目指す学生向けならではの特色を持つ学生寮を取材した。

新しい学生寮は「東北の教育大学」としてのIT化、バリアフリー化に対応し施設整備の一環として建設された。鉄骨四階建て延べ床面積は約四千三百平方メートル。男女別の二つの棟に分かれ、それぞれ個室となっている。

その最大の特徴は、教員を志す学生を支える様々な設備の工夫にあった。

【男性、女性でゾーニングされる西棟と東棟】

【黒板やピアノを自由に使えるセミナールーム】

自分の好きなタイミングで模擬授業を行えるように黒板やチョークが常設されていることや、教員採用試験に向けてのピアノ練習をすることができるセミナールームが設けられていることに驚いた。

寮の中を歩きながら気付いたことは、廊下や共同スペースの随所に小さな机や椅子、本棚が設置されていることである。学年や専門分野を越えて学生が集い、語り合うことができる場所が整えられていることを感じた。

また、オープンリビングというスペースでは、寮生が一緒に学んだり、料理をしたりするなど交流できるようになっていた。

新学生寮では、入寮時から個室で過ごすことによって、これまでと異なる交流の在り方を模索する学生寮の姿が取材を通

して見えてきた。
　そこに、学年や専門分野を越えて学生が集い、語り合うことを大切にしたいという教育大学の矜持を垣間見た。
　これからどのような寮生活のストーリーが紡がれていくのか、今から楽しみである。
（取材：橋本俊一・千葉廣）

【各ユニットに設置されているオープンリビング】

【廊下に設置された椅子や机】

「青葉こもれび寮」～命名に込められた思い～

　学生寮の名称は公募で決定しました。「青葉」「こもれび」という言葉を応募したお二人に、名前に込めた思いを教えていただきました。

憩いの場になることを願って

学校教育教員養成課程
中等教育専攻 理数系教育コース数学二年
長内ののか

　大学寮の名前に関する公募の存在を知って興味を抱いたことが寮の名前を考えるきっかけとなりました。どんな名前がよいのかとても悩みましたが、キャンパス内で偶然見かけた木漏れ日がとても美しく、心が和らいだことをふと思い出しました。そして自分が木漏れ日を見たあの時のように、学生寮という存在が皆にとっての憩いの場に、そして皆がそれぞれの経験を通して誰かにとって憩いのような存在になってほしいという思いから「こもれび」という言葉を提案しました。そしてそこに「青葉寮」という素敵な名前も加わり、現在の「青葉こもれび寮」という名前になりました。
　この「青葉こもれび寮」という名前と存在が、この先も誰かにとって「憩い」となることを心から願っています。

青葉こもれび寮命名理由について

学校教育教員養成課程
中等教育専攻
言語・社会系教育コース二年
佐々木彩乃

　青葉こもれび寮は二つの候補名を組み合わせた寮名になっています。私からは「青葉寮」という名前を提案させていただきました。命名の理由としては、宮城教育大学が「青葉山」にある大学であるということが一つあります。寮が青葉山にできるということだったので、宮教大にちなんだものにしたいと考えました。また、「青葉」という言葉から連想して思いを込めています。青葉のように、寮生活を送る中で寮生との交流を通してのびのびと成長していけたらと思い、この寮名を提案いたしました。
　現在は青葉こもれび寮で学生生活を送っております。学年を越えた学生との交流や共同生活、寮の充実した設備の中で日々学修に励んでおります。宮教大らしい、素敵な寮名に決めていただいたことを嬉しく思っております。

【除幕式（2024.3.14）】

教えて！

青葉こもれび寮の魅力 ―現役寮生の声―

新しい学生寮での暮らしが始まって約半年。実際に暮らしてみて、
寮生たちはどのような感想をもっているのでしょうか。

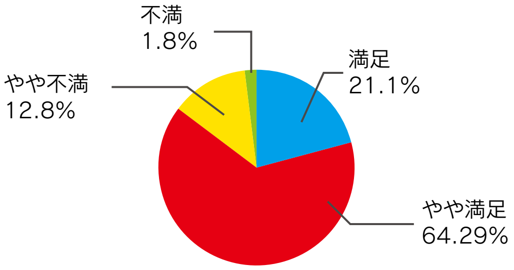
アンケートの実施目的

入寮学生の意識・生活状況等について調査を行い、寮生活の実態を把握するとともに、寮生の皆さんがよりよい寮生活を送るための資料を得ることを目的に宮城教育大学が行ったアンケートです。

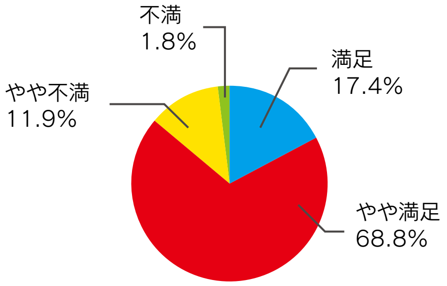
実施時期：令和6年10月2日（水）～11月25日（月）
集計方法：Googleフォーム
対 象 者：全入寮学生（回答数109人　回答率83.8％）

調査結果

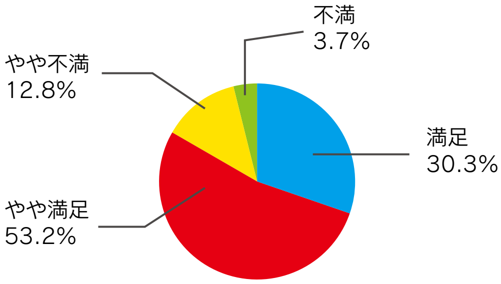
寮における学習環境（静穏な環境での個人学習・他の寮生との学び合いの場等）についての総合的な満足度について教えてください。



居室の満足度について教えてください。



寮の住環境（通学時間・設備・施設利用等）についての総合的な満足度について教えてください。



寮生活を振り返って

初等教育教員養成課程
教育学コース４年
藤井　磨音

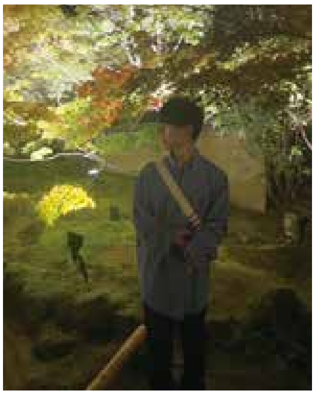
一年生から三年生までは、男子寮で過ごし、四年生からは青葉こもれび寮に入り、寮生活を送っています。これまでの寮生活を通して、多くの良さを実感しました。その中でも、特に印象に残った三つを以下に紹介させていただきます。

一点目に、学校との距離が近い点です。そのため、授業開始の十分前に出発すれば授業に間に合います。私は、その時間を有効活用し、レポートや自分の趣味等に時間を費やすことできました。時間に余裕を持つことができることが大きな利点だと考えます。

二点目に、自然が豊かである点です。寮は青葉山の中にあります。そのため、周りは木々に囲まれ、春には新緑、秋には紅葉、そして冬には葉が散り、雪が積もる雪景色を一望することができます。また、イノシシやハクビシン等の野生動物に出会うことができます。自然を感じることができる点が大きな魅力であり、自分の人生を豊かにしたと実感しています。

三点目に、同学年及び異学年の多くの学生と出会い、交流の機会を持つことができる点です。寮では、同学年及び異学年の学生と交流の機会を持つことができます。多様な背景を持つ学生と出会い、自分とは異なる考えや価値観を知ることによって、自分の世界が広がりました。寮の友人とともに、学業はもちろんのこと、旅行に行ったり、飲みに行ったり、ライブに行ったりと多くの経験ができました。寮の友人とともに、多くの経験ができたことは、私の学生生活の一番の思い出です。

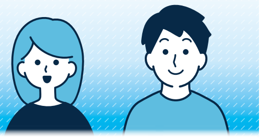
私は、入寮して、ここまで挙げた良さはもちろんのこと、多くの学びを得ることができました。入寮し、学生生活を送ることができて心から良かったと感じています。皆さんの寮生活が豊かなものになることを心から願っています。



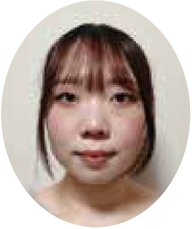
【寮から松島へ紅葉見物】

入寮生の話

新旧の寮で過ごした経験を持つ現役寮生に、それぞれの魅力や違いについて語ってもらいました。



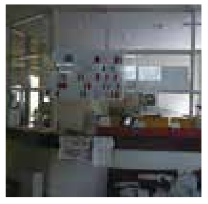
青葉こもれび寮での新生活



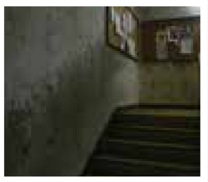
学校教育教員養成課程
中等教育専攻
言語社会系コース３年
梅田　杏海

新寮での生活がスタートしてから、早一年が経とうとしており、この原稿執筆をきっかけに二年生までの萩苑寮での生活を懐かしく感じています。約三年の寮生活を振り返って感じた萩苑寮と青葉こもれび寮の大きな違いは、やはり自治寮であるか否かだと思います。自治寮であった萩苑寮では、委員会への所属や定期的な清掃・集会への参加があり、その生活の中で組織の中での自身の役割を強く意識するようになりました。また、委員会や清掃を通して先輩方との親睦を深めたり、集会がある時に学校ではなかなか会わない友人とお話したりすることも楽しかったです。新寮である青葉こもれび寮は寮全体で決まった委員会への所属、清掃・集会への参加はなく、ユニットごとにルールを設けて生活しています。私のユニットでは特定の清掃日を設けず、使った人が片付けるという方針で共用スペースを利用しています。決まったルールがないからこそ、「自分が使う前よりも綺麗に」を心がけるようになったと思います。新寮では寮全体の交流会はありませんが、夜ご飯を一緒に食べたり、定期的にパーティーを開催したりするユニットもあり、今年度は多くのユニットで一年生歓迎会が行われていました。寮生活は学年や専攻を越えて、いろいろな人と交流できることがいちばんの魅力だと思います。時に先輩として、時に後輩として、そして常に仲間として、ともに学び、支えあえる生活を送っていきたいです。

【ユニットＧ　新入生歓迎会の様子】



男子寮の思い出



ありがとう！男子寮

初等教育教員養成課程
発達教育系
子ども文化コース
平成 27 年度卒

鈴木　晋也

後期試験で大学に合格した私は住居を選ぶ時間もなく、男子寮へ入ることを決めた。印象深いのは、二十二時から始まる一斉清掃（夜勤のバイトを入れると休むことができる）やブロック毎に競うスポーツ大会、ブーメランパンツで踊った寮祭、なぜか新入生に先輩が混じっていたり、廊下で先輩に会った際には直立不動で手を後ろに組み大声で「オース！」と言うきまりを教えられたりする「嘘コン」（純真無垢な我々新入生は見事に騙されたのである）。ブロックの先輩と同室の後輩が私の誕生日をサプライズで祝ってくれたことも良い思い出だ。先輩が食べきれない量のピザをプレゼントしてくれた。「残したら割り勘ね」と言いながら、三人で一緒に満腹になっても食べ続けたピザの味は今でも忘れられない。「寝食を共にする」「同じ釜の飯を食う」と言うが、男子寮ではそれよりも深い関係を仲間と築くことができた。

原稿を書くにあたり、「にーにー」（二階二ブロック）の皆に連絡したところ、数々の写真や思い出話を聞くことができた。その刺激強めの写真やエピソードの数々から「男子寮での出来事は記録には残せないが、記憶には鮮明に残る」と強く感じた。男子寮では、今でも親交のある仲間たちと一生忘れられない思い出を共にする貴重な経験をすることができた。実は、現在の勤務校で、以前男子寮でお世話になった狩野敏毅さんと一緒に働いている。男子寮がなくなってしまうことは寂しい気持ちも大きいが、新しい「青葉こもれび寮」でも学生の皆さんがたくさんの「良い」思い出を作れるよう祈るばかりである。

（宮城教育大学附属小学校　勤務）

【狩野さんと一緒に働いています！】

入寮には源泉徴収票が必要？

小学・教育心理ピーク
昭和46年度卒
吉野　良一

入寮すれば、もう辛いバイトから逃れられる。ところが親元に必要書類の郵送を頼んでもなかなか来ない。実は、源泉徴収票そのものを使っていなかったようだ。そこで、「バイトできる体ではないので。」と、懇願の手紙を何通か出した。すると、ひと月遅れでやっと届いたのだ。

寮長に提出し、やっとのことで安く泊まれる所ができたのです。

寮生活の思い出といえば、やはり風呂磨きです。鳴子温泉の風呂磨きで慣れていたのでさっさと完了。

それに、潜る練習。実は、名取川で測量の作業をしていましたので、流されないように「潜れ」と言われていたのです。

夜中になると、部屋の訪問が始まります。みんな専門が違うので、いろんな話をしてくれました。

それが終わると夜中から明け方まで心理学の英文を和訳します。

他に思い出に残っているのは、万博が始まったので、夏休みに大阪へ帰るのにお金を貯めていたのに、そのお金を使って寮生三人で自炊したことです。お味噌汁と漬物、それに炊きたてのご飯です。帰省する費用がかかるけれど、なんと言っても腹が減るのです。この時の味は、暫く忘れられませんでした。

それからもう一つ忘れられないことがあります。

免許証を八月に取得して、すぐレンタカーを借り、白河までドライブをして、明け方に寮に帰り、寮の前で三脚を立て、自動シャッターで自撮りした事。ようやく大人になりました。運転できれば大人の仲間入り。五十五年前の楽しい寮生活の一コマでした。

【昭和４６年頃?】

青葉山経由男子寮○▲行き

学校教育教員養成課程
国語教育専攻
平成11年度卒
永原　啓嗣

平成十年の十月。私はとある事情から男子寮に途中入寮することになった。私の配属先は「四階一ブロック」。

男子寮では、「○階▲ブロック」のことを「○▲」と称す。だから私は「よんいち」の住人である。寮生活を送る上では、この「○▲」を最小単位とする行動様式が規律となり、それがゆえに、「○▲」ごとに醸される独特の文化や味わいがあった。と言って何のことはない、喫煙者が多いエリア、酒好きが集まるエリアなど、住人の行動様式が色濃くにじみ出しているにすぎないのだ。

我が「よんいち」は、喫煙者がいなかったため、清浄な空気が漂っていた。その代わり奇人が多かったため、正常ならざる気配に満ちていた。私はその気配が気に入り、自分ではついぞ意識もしなかった、「我ならぬ我」に気分も体も支配され、あっという間に「よんいち」ワールドの住人に相成った。

ドアは開けっぱなし。棚の漫画を勝手に読む、いつの間にかドラクエのレベルが上がっている、彼女からの電話も本人のふりをして出るなど、プライベートのかけらもなく、現代の感覚では全く流行らないノスタルジックな文化圏で、それなりに日常を営んでいた。

電話と言えば、当時の男子寮はケータイが通じにくかったため、相手からの通信手段は着信専用の黒電話が専らであった。電話がジャリーンと鳴れば、近くにいる寮生が受ける。相手が男性の時は「着信・電話」。女性であれば「着信・お電話」と粋な呼び分けをして、館内放送で呼び出す仕組みだ。呼ばれれば「はーい」といって部屋を出る。「着信・お電話」の時は「はーい」の声がうわずり、鉄砲玉のように飛び出す男子寮生たちであった。

あれから三十年近くが経った。もう二度とは鳴らない男子寮の電話を前に、幾多の寮生が佇んでいる。あの場所も時間も二度とは戻らない。新設された「青葉こもれび寮」においても、若人たちに素晴らしき青春の時が流れんことを信じてやまない。

（宮城県総合教育センター　勤務）

【留学生のスコットくん（中央）の送別会】

萩苑寮(女子寮)の思い出

萩苑寮全景！

私の相棒！

ベッド周りには大好きなキャラクター

yummy!

女子寮食

お気に入りのマイデスク

思い出ベスト3！

初等教育教員養成課程教育学コース
平成二十七年度卒
金　早菜恵

①寮友との出会い
家族と離れて初めての生活。お風呂や食堂に行けば、友達にすぐ会える。大学への往復も一緒だと心強い。ねえ聞いて～！と部屋を訪ね、何時間でも何時間でも話していた友達。実習、将来、家族、恋愛。あらゆる喜怒哀楽を共有する。そんな友と出会えたことが貴重な思い出。

【女子寮の仲間たち】

②嘘コン歓迎会
各階四年生が一人ずつ新入生に紛れて生活、毎朝の寮体操、怖い先輩がいる、という嘘だらけの一週間。その中で、先輩たちから寮生活のノウハウが引き継がれていく。この時期の四年生の企画運営力に脱帽。

③食堂で過ごす時間
おいしくバリエーション豊かな寮食がみんなの楽しみ。もちろん、テレビを見たり、お菓子を食べたり、学年を越えたおしゃべり交流も。実習や教採に向けたピリッとした空気も、イベントで盛り上がるパーティ感も、共同スペースならでは。

(登米市立加賀野小学校　勤務)

萩苑寮での思い出

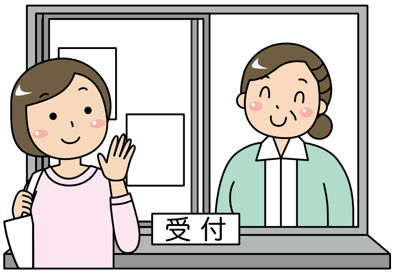
学校教育教員養成課程
国語教育専攻
平成十三年度卒
佐藤　京子

いつものように寮に帰り、鍵を開けて暗い部屋に入るとクラッカーが鳴って「おめでとう!」という明るい声。寮生活の多くの時間を共有した友人二人がドラマのような誕生日のお祝いを用意してくれたあの感激が、寮生活の一番の思い出でしょうか。

朝二本だけの直通バス、二台しかないシャワーを延々と順番待ちしたこと、十円で三分（曖昧な記憶ですが）使えるガスコンロで作るインスタントラーメン、自分あての電話が来ると放送で呼び出され、階段をかけ降りて電話に出たこと。夏は暑さをしのぐため、窓だけでなくドアも開け放ち、向かいの部屋と協力して風が入るようにして寝たこと。屋上からどこかの花火大会で打ち上げられる花火を眺め、将来の不安を友と語り合ったことはよく覚えています。一人暮らしの快適さがうらやましいこともありましたが、よき友に出会い、日本各地の様々な文化に触れ、何より幾度となく皆で萩苑寮の寮生歌（作詞は寮生）を歌ったことが今となってはかけがえのない思い出です。

卒業から二十三年が経ち、日常生活に追われて大学生活のことを思い出すことはあまりありませんでしたが、今回原稿の依頼をいただき様々なことを懐かしく振り返りました。自分が子育てをする立場になり、毎日食事を作ってくださった方々や寮母さんのありがたさも改めて感じているところです。

萩苑寮の閉寮は寂しくはありますが、新しい寮の歴史が始まることをうれしく思います。



女子寮秘話

女子寮はタテ社会!?

中等教育教員養成課程
音楽教育専攻
平成二十四年度卒
安藤　マリ

大学まで行かせてもらえるんだから、せめてなるべくお金がかからない生活をしよう。そんな思いから、女子寮に入ることを選択した。入学前の説明会で「外泊は自由にできるんですか?」と聞くと「各階の長に事前申請が必要です」と。意外と厳しいんだなと思ったことを憶えている。

四月、入寮。各階の同期とは仲良くなれそうだけど、女子寮独自のダンス練習や細々とした決まりに若干怯え、縦社会を覚える機会だと腹を括るか、と覚悟した。

入寮して一週間後に行われた新歓。沢山の先輩方に囲まれ緊張しながら過ごしていると、突如先輩同士の喧嘩が始まった。ガラの悪そうな先輩、それを怒鳴りつける寮長の迫力、圧倒されながら、もうこんなところではやっていけないかもしれない――。

…そう思った時。ガラの悪かった先輩がいきなり笑顔になり、寮長と肩を組み笑い出した。自分は寮伝統の〝嘘コン〟に見事に騙されたのだった。そこからはお祭り騒ぎ。嘘コンのネタばらしに先輩方の各代のダンスの披露、宴は夜中まで続き、やっとこの寮の一員になったんだなと実感した夜だった。もちろん外泊の事前申請も嘘だった。

寮には附属実習が終わる三年夏までお世話になった。過酷な実習を乗り切れたのは寮の仲間たちがいたからだ。大学から少し遠い不便さも専攻の違う仲間との楽しい交流時間だった。落ち込んで帰ってきても食堂に誰かがいる安心感が身を包んでくれた。女子寮での生活は、自分の大学時代の一端を確実に彩っている。

（埼玉県富士見市立西中学校　勤務）

同窓会報告

日時：令和６年７月２７日（土）
会場：宮城教育大学萩朋会館２階
参加人数：２３人

〔プログラム〕
第１部　総　会
第２部　懇親会

　第３７回同窓会は、昨年度に引き続き、今年度もホームカミングデーとの合同開催として宮城教育大学萩朋会館で開催されました。
　同窓会総会の後は、５年ぶりに萩朋会館の２階で懇親会が企画されました。懇親会では、サークル活動報告や、新しく建てられた「青葉こもれび寮」についての紹介などが行われました。幹事学年を中心とした和気あいあいとした雰囲気の中、同窓生と大学関係者が一緒に宮教大について語り合う姿が見られました。

夢と希望に溢れた大学

小学校教員養成課程・
Ａ類社会系
平成５年度卒
実行委員長
三浦　孝教

　令和六年度第三十七回宮城教育大学同窓会が、松岡尚敏学長をはじめ、多くのご来賓や同窓生のご参加をいただき、無事に開催できましたことに深く感謝申し上げます。
　今回、先輩の実行委員長から世話役の打診を受け、同じ卒業年度の同窓生五名で実行委員会を組織しました。そして沼倉学先生及び大学関係者の皆様に事務的な面で支えていただきながら、総会及び懇親会を行うことができました。
　宮城教育大学は、昭和四十年に誕生し、今年で創立六十年を迎えることとなります。六十年を迎えるにふさわしい施設・設備が整い、中でも個室が完備された男女併設の寮ができたことには隔世の感があります。懇親会では、そんな今の大学の様子について話しながら交流を深めたり、同窓生の方々からの学生時代の思い出スピーチをいただいたりして、会場は大いに盛り上がりました。
　教育界を含め、各界で活躍されている方々を輩出した宮城教育大学が、これからも夢と希望に溢れ、ますますの発展を遂げていくことは間違いのないところと改めて確信した時間となりました。
　運営に協力していただきました皆様、またご参加いただいたすべての皆様に重ねて御礼申し上げます。　（仙台市立鶴巻小学校 勤務）

同窓会を終えて

小学校教員養成課程
教育系 教育学コース
平成５年度卒
佐藤　善威

　今回は、平成五年度卒業生が実行委員を担当するということで、諸準備や当日の運営などをお手伝いさせていただきました。
　まず総会では、卒業生名簿の作成が議題として挙げられました。次年度宮城教育大学が創立六十周年の節目の年を迎えることを考えると、ちょうどよいタイミングであると感じたところでした。
　その後、萩朋会館二階の飲食スペースをお借りして、懇親会が開催されました。料理や飲み物はケータリングサービスを利用することで、飲食スペースが豪華な懇親会の会場となりました。
　実行委員長である仙台市立鶴巻小学校の三浦孝教さんの挨拶に始まり、続いて松岡尚敏学長にご挨拶と乾杯のご発声をいただきました。会の途中では、青葉こもれび寮の紹介やバトミントン部と陸上部から、活動報告の映像もいただきました。また思い出のスピーチとして、竹田幸正さん（昭和四十九年度卒）や加藤良樹さん（平成六年度卒）、千葉廣さん（平成二十四年度卒）が大学時代の思い出をお話してくださり、会場は和やかで温かい雰囲気に包まれました。私は初めての参加でしたが、恩師の先生にお会いできたり、先輩や後輩と久しぶりに会ってお話しできたり、あっという間の時間でした。
　今回は、日程の関係で現役世代をお呼びすることができず残念でしたが、次年度は創立六十周年となることから、現役世代を交えて

【同窓会総会会長あいさつ】

の盛大な同窓会となることを期待しています。
最後となりましたが、諸準備にご協力くださった大学職員の皆様や当日ご参加してくださった方々に感謝申し上げます。
（登米市立津山小学校 勤務）

「同窓会」に思うこと

小学校教員養成課程
教育系 教育学コース
平成５年度卒
玉上 智江美

五月、お世話になっている先輩からご連絡をいただき、同窓会実行委員をお引き受けすることになりました。今感じているのは、声をかけていただいて本当に良かったということです。

大学を卒業し三十年。市内の小学校で勤務し、何度か宮教大に訪れることはあったものの、会報を読んだり、恩師や友人との年賀状のやりとりで当時を懐かしんだりするくらいで、「同窓会に参加する」ということは考えたこともなかったというのが正直なところです。そんな私が、今回初めて参加し、実行委員としてお手伝いさせていただいたことで、同窓生としての新たなご縁がつながり、多くのことに気付けた貴重な機会をいただきました。

懇親会では、松岡学長を始め、参加された皆さんとたくさんお話できました。その中で、林竹二や斎藤喜博の名前を久しぶりに耳にし、緑豊かな学び舎で過ごした日々が一瞬で思い出され、今目の前のことに精一杯の自分を励ましてもらえた気がします。そしてあの頃の学びの数々が、今の自分の根っこ、核であると気付くこともできました。さらに「学校」が、同じ時を過ごしたり、同じ場所を共有したりした「同窓」というつながりとなり、子どもたちの人生にとって、かけがえのない場所となるように、教職に携わる者として努めていかなければならないと、改めて感じました。

【懇親会は乾杯から始まった】

同窓会開催に当たり、ご協力くださった全ての皆様への感謝と共に、母校の発展と同窓会の繁栄を心からお祈り申し上げます。
（仙台市立岡田小学校 勤務）

誕生日

黒田 謙二

小・美術ピーク 昭和五十三年度卒

60周年 同窓会総会第一次案内

60周年の同窓会総会は、下記の要領で開催されます。
皆様のご参加をお待ちいたしております。

記

日時 令和７年７月26日（土）14時
会場 宮城教育大学

実行委員／平成6年度、平成16年度、平成26年度卒業生

※創立60周年記念行事は10月18日（土）の予定です。
また、開始時刻については変更になる場合があります。

令和５年度　庶務報告

(1) 総会開催令和 5 年 8 月 5 日 宮城教育大学
(2) 理事会開催 令和 5 年 5 月 19 日宮城教育大学　令和 6 年 2 月 28 日宮城教育大学
(3) 総会実行委員会設立 平成 4 年度，平成 14 年度，平成 24 年度卒業生担当
(4)会報「山にありて」35号発行 2,500部発行。令和3年度より電子版にアクセスしていただく方法に変更。紙媒体は入学生、卒業生、宮城県内の学校・教育委員会等に発送。
(5) 学生自主活動支援 学生の自主活動支援金として、3 団体に合計 90,420 円を支援しました。" 支援した団体名（申請のあった順）バドミントン部、陸上競技部、硬式野球部 "

令和５年度　会計報告

(1) 会計期間　令和 5 年 4 月 1 日から令和 6 年 3 月 31 日
(2) 収支概況
　収入総額　2,609,721
　支出総額　1,961,684
　差引残額　648,037　→積立金へ
(3) 積立金
　令和 4 年度末　5,476,457 円
　令和 5 年度当初　5,083,772 円
　↑前年度末の残高から決算時での積立金繰入金を差し引いた額
　令和 5 年度末　5,731,809 円
(4) 財産状況（令和 5 年 3 月 31 日現在額）　現金・預金合計　5,731,809
　現金　23,536 円
　預金　3,691,493 円（ゆうちょ銀行　普通預金）
　　　　2,016,780 円（ゆうちょ銀行　振込用口座）

(5) 補足
＊会費収入について、令和 4 年度 322 名に対し令和 5 年度は 273 名で 49 名（392,000 円）減。
＊平成 29 年度同窓会総会での決定に基づき、平成 29 年度 9 月より、同窓会業務の一部を宮城教育大学に委託。
＊卒業記念品としてクリアファイルを、令和 6 年 3 月の学位記授与式にて学部卒業生および大学院修了生に贈呈。

単位（円）

１. 収入の部

項目	令和５年度予算額	令和５年度決算額	比較増減額	備考
1. 前年度繰越金	0	0	0	
2. 会費	2,560,000	2,186,000	△ 374,000	"273名×8,000円(1名の会員が2,000円多く入金したことから、令和6年度予算にて対応する予定)"
3. 利子	0	11	11	
4. 積立金繰入金	57,526	392,685	335,159	
5. 雑収入	0	31,025	31,025	
合計	2,617,526	2,609,721	△ 7,805	

２. 支出の部

項目	令和５年度予算額	令和５年度決算額	比較増減額	備考
1. 事務費	39,031	24,126	△ 14,905	
（1）事務費	9,359	9,792	433	
（2）通信費	28,172	12,606	△ 15,566	
（3）人件費	0	0	0	
（4）会議費	1,500	1,728	228	
2. 事業費	2,378,495	1,937,558	△ 440,937	
（1）総会費	50,000	37,100	△ 12,900	
（2）会報発行	205,210	207,544	2,334	山にありて 35 号 2,500 部
（3）会員情報管理費	1,120,000	869,829	△ 250,171	データ管理、会報発送
（4）学生活動援助	300,000	90,420	△ 209,580	1 回，計 3 件分
（5）広報費	42,845	72,225	29,380	新入生用入会案内
（6）事務局業務委託費	660,440	660,440	0	
（7）ホームページ作製費	0	0	0	
3. 雑費	0	0	0	
4. 予備費	100,000	0	△ 100,000	
5. 寄付	100,000	0	△ 100,000	
（1）学生支援事業全般	0	0	0	
小計	2,617,526	1,961,684	△ 655,842	
欠損金	0	0	0	
合計	2,617,526	1,961,684	△ 655,842	

【特別会計】
３. 積立金の部

項目	令和５年度当初	令和５年度末	比較増減額	備考
1. 積立金	5,083,772	5,731,809	648,037	

令和６年度事業計画(案)

⑴総会開催　令和 6 年 7 月 27 日　対面方式
⑵理事会開催　令和 6 年 5 月 17 日　宮城教育大学
⑶総会実行委員会設立　平成 5 年度、平成 15 年度、平成 25 年度卒業生担当
⑷会報「山にありて」36 号発行
⑸学生自主活動支援
⑹名簿調査・作成事業

令和６年度予算(案)

単位（円）

⑴会計期間　令和 6 年 4 月 1 日から令和 7 年 3 月 31 日
⑵収支概況
　収入総額　2,560,000 円
　支出総額　2,532,000 円
　積立金　5,759,809 円
　残額　5,759,809 円

＊予備費を計上する目的
予算執行の基本方針は当該年度の収入の範囲で活動（支出）を計画します。但し、当該年度中に予想を超える事態が発生（例えば震災）した場合に備えて「予備費」と計上します。10万円を超える予備費の執行に当たっては臨時理事会を開催して決済します。

１. 収入の部

項目	令和５年度決算額	令和６年度予算額	比較増減額	備考
1. 前年度繰越金	0	0	0	
2. 会費	2,186,000	2,560,000	374,000	320 名× 8,000 円
3. 利子	11	0	△ 11	
4. 積立金繰入金	392,685	0	△ 392,685	
5. 雑収入	31,025	0	△ 31,025	
合計	2,578,696	2,560,000	△ 49,721	

２. 支出の部

項目	令和５年度決算額	令和６年度予算額	比較増減額	備考
1. 事務費	24,126	37,000	12,874	
（1）事務費	9,792	10,000	208	
（2）通信費	12,606	25,000	12,394	切手代、HP 用レンタルサーバー代
（3）人件費	0	0	0	
（4）会議費	1,728	2,000	272	理事会湯茶
2. 事業費	1,937,558	2,445,000	507,442	
（1）総会費	37,100	50,000	12,900	
（2）会報発行	207,544	400,000	192,456	山にありて 36 号 2,500 部
（3）会員情報管理費	869,829	950,000	80,171	データ管理・フォーマット変更、会報発送
（4）学生活動援助	90,420	300,000	209,580	サークル活動支援
（5）広報費	72,225	75,000	2,775	新入生用入会案内、卒業記念品、
（6）事務局業務委託費	660,440	670,000	9,560	
（7）ホームページ作製費	0	0	0	
3. 雑費	0	0	0	
4. 予備費	0	50,000	50,000	
5. 寄付	0	0	0	
6. 特別会計	0	0	0	
小計	1,961,684	2,532,000	570,316	
欠損金	0	0	0	
合計	1,961,684	2,532,000	570,316	

【特別会計】
３. 積立金の部

項目	令和６年度当初	令和６年度末	比較増減額	備考
1. 積立金	5,731,809	5,759,809	△ 28,000	

学生活動援助金サークル紹介

同窓会費より、大学のサークルに支援金が贈られました。今年度支援金を受け取った女子バレーボール部、硬式庭球部、男子バスケットボール部、放送サークル、女子ソフトボール部、アカペラサークル奏、男子ソフトボール部、7つのサークルのうち、2つのサークルの活動を紹介。

男子バスケットボール部

学校教育教員養成課程
中等教育専攻
理数系教育コース 数学三年
安達　碧

私たち体育会男子バスケットボール部は、「南奥羽地区二部優勝・一部昇格」を目標に、練習に取り組んでいます。部員が少なく、指導者もいない中ではありますが、自分たちの課題を見つけ、日々考えながら、互いに切磋琢磨し合い練習をしています。支援金で行いたい活動といたしましては、新しい公式球を購入し、試合に近い環境の中で、より実践的な練習を行っていきたいと考えています。常に試合をイメージしながら、シュート一本一本にこだわっていきたいと思います。直近の大会では中々結果が出せず、悔しい思いをしていますが、試合、練習中に気になった自分たちのプレーを丁寧に分析しながら、練習の質の向上やバスケットボールに対する理解を深めていくことに努めています。また、教員養成大学に通う人間として、相手に自分の意見が伝わるような話し方や態度を学び、今バスケットボールができていることを当たり前と思わず、一回一回の練習を大切にしていきたいと思っています。今後も関わってくださるすべての方に感謝しながら、いただいた支援金を自分たちの技術の向上や環境の整備に役立てていくことはもちろん、次の世代にもつなげていけるように活用していきます。勝ちに貪欲に本気で目標達成を目指し、努力していきますので、ぜひ応援の程よろしくお願いいたします。

【目標は優勝!チーム一丸で戦います!】

放送サークル

初等教育専攻 未来づくり
教育創生コース 二年
齋藤　光翼

皆さんは宮教大で放送サークルが活動していることをご存じですか？

放送サークルが本格的に活動を始めたのは三年前で、今年度ご卒業される先輩方が立ち上げました。まだまだ新米サークルですが、かなり充実した活動をさせていただいています。例えば、毎年吹奏楽部の定期演奏会の影アナウンスを務めさせていただいております。また、教育現場で実際に活用できる映像教材の制作も行っております。さらに、今年度は全国の放送部・サークルが参加しており、一年で一番大きな大会である「NHK大学放送コンテスト」の映像番組部門で全国四位に輝きました。

放送サークルの活動には撮影用のカメラ、動画編集用のパソコン・編集ソフトなど、高額な機材が必要不可欠です。学生課の皆様や同窓会の皆様のご支援により設立して間もないサークルにも関わらず充実した活動を行い、大会で結果を残すことができました。今年度の同窓会の支援金では、映像番組の制作には不可欠なBGM集・効果音集の購入に充てさせていただきました。BGM集・効果音集の活用により、制作できる映像番組の幅が広がり、完成作品のクオリティーも向上します。

おかげさまで、放送サークルにとって今年度は飛躍の一年となりました。来年度の放送サークルの活躍にもぜひご期待ください！

【全国大会参加メンバー】

出会いに感謝

小学校教員養成課程
教育心理学コース
平成四年度卒
加勢　徳寿

「学校の先生になりたい。」小学生六年生の卒業文集に書いていました。それから四十年が過ぎ、これまで学校の先生として働いてきました。なりたい職業に就き後悔はしていませんが、大学時代に関しては、決して褒められた学生ではなく、今では「もっと真剣に学んでいたら・・・。」という心残りが強くあります。しかし、そのような大学時代において、仲間との出会いは大きな宝となっています。

特に、軟式野球部のメンバーとは多くの時間を過ごしました。野球、練習、アルバイト、恋愛、取得単位数等、たくさんの話をし、助けられました。合宿では、練習への取り組み方について、個々の思いや本音を出し合い、熱く語り合い、耳を傾けることの大切さに気付きました。

「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」、これは孟子の言葉で、物事を為す時には、三つの条件があり、特に「人の和」が重要であるとしています。今後も、教育の不易と流行を念頭に置き、与えられた環境を十分に理解し、仲間とのつながりを大切にしていきたいと考えています。

現在、娘が教員を志し、大学で学んでいます。父とは違い真剣に学んでおり、頼もしく見えます。「教育は人なり」、「親」として木の上に立って見るように、娘の「人」としての成長をそっと見守っていきたいと思います。

（大崎市立田尻小学校　勤務）

【熱く語り合った軟式野球部の仲間たち】

親子DE同窓生

子供を知りたい

学校教育教員養成課程
初等教育専攻人文・社会系
教育創生コース三年
加勢　幸愛

「学校の先生にはなりたくない。」私は小学生の時、このように思っていました。毎日、疲れた様子の両親を見ていたからです。しかし、中学生の時、小学生の妹の学芸会を見に行き、発表を終えた子供たちと先生の笑顔を見た時、小学校の先生は素敵な職業なのかもしれないと感じました。

大学生活では、子供と関わる機会を増やしたいという思いで様々な活動に取り組んできました。三年次の小学校での教育実習では、優しく温かい児童に囲まれ、かけがえのない二週間を過ごしました。しかし、その一方で、自身の児童を観る力の足りなさを痛感し、悔しい思いもしました。児童を観る力を高めるために、現在は、地元の小学校で学校ボランティアを行っています。様々な児童と共に勉強して遊んで、笑って、とても充実した経験をさせていただいています。また、学校外でも、子供と関わるボランティアに参加しました。学校外の子供の姿はまた違って新鮮で、子供を知ることの奥深さを実感しました。

父は、「教員は大変なこともあるけれど、子供の笑顔や成長が見えた瞬間、その大変さが弾け飛ぶ。」と言います。その子供の笑顔や成長こそが教員のやりがいだと思います。私も実際にそのやりがいを感じた経験があり、その度に教員を志してよかったと感じます。理想とする教師像に近づくため、これからも多くの経験を積み重ねていきたいと思います。

【子供を知るためのボランティア活動】

恩師は今

「教育実践」の本質に迫ってほしい

宮城教育大学　名誉教授
（教育学）
横須賀　薫
（2006年7月
退職）

同窓会会員のみなさん、こんにちは。会を維持し、運営してくれている委員のみなさん、ご苦労様です。私が学長の仕事を終えて宮城教育大学を離れたのが二〇〇六年ですので、間もなく二十年が過ぎようとしています。でも宮教大のことは片時も忘れることはなく、その行く末を見守っているつもりです。教育学担当の講師になったのが一九六八年でしたから、四十年近くお世話になったことになります。その間、同窓会の設立に関わったことも思い出の一つになっています。みなさんが関わっている仕事、これから関わる仕事を言うならば＜教育実践＞ということになります。これは難しい仕事ですが、考えようでは面白い仕事でもあります。これからいろいろと苦労があり、辞めたくなるようなことにも出会うでしょうが、その先にすばらしい出会いがあることを忘れず懸命にやって下さい。期待しています。

【横須賀薫先生の最新刊】

二〇二五年二月二日に河北新報に取り上げられました。
（編集委員）

新コーナー　フレッシュ先生だより

教員になって

初等教育教員養成課程
音楽コース
令和4年度卒
三浦　里穂

志していた教員になり、もうすぐ二年になります。初めて教壇に立った時は、緊張や不安もありましたが、これから先への期待で胸がいっぱいだったことを覚えています。

教員になって、今感じていることは、「子供たちと関わることはとても楽しい」ということです。学級には、私が思い付かないユニークな発想を持っている子や、素直で何事にも一生懸命に取り組む子が多くおり、個性に溢れています。そんな子供たちと過ごす日々は毎日がとても新鮮です。また、教材研究は終わりがなく、どれほど時間を掛けても難しいと思うことばかりですが、子供たちの「できた！」「分かった！」という生き生きとした表情を見ると、とても嬉しくなります。

教員になったばかりの頃は、理想と現実のギャップを目の当たりにし、不安に押し潰されそうになることもありましたが、一生懸命な子供たちと周りの先生方の支えのおかげで乗り越えることができました。大変だと感じることもありますが、子供とじっくり関わることで一人一人の個性が見えたり、成長が感じられたりすることは、教員の大きな喜びだと感じています。

大学時代の友達とは、今でも頻繁に連絡を取り、一緒に教材研究をしたり、悩みを相談し合ったりしています。大学で共に教員を志し、励まし合った仲間の存在は現場に出ても心強く、私の支えになっています。

まだまだ未熟な私ですが、今後も多くの事を経験し、学び続ける教員でありたいと思います。

（松島町立松島第二小学校　勤務）

事務局だより

令和六年は元日に能登地方を襲った地震から始まり、記録的な猛暑や台風の接近など、自然の脅威も改めて感じさせられた年でした。アメリカで発生した大規模な山火事は、地球温暖化がもたらす影響の深刻さを改めて浮き彫りにし、日本だけでなく、世界全体で気候変動対策に取り組む必要性を強く感じさせられる出来事でした。

一方、パリ五輪での日本代表選手たちの活躍は、私たちに大きな感動と勇気を与えてくれました。個人的には男子体操団体が印象に残りました。岡慎之助選手をはじめ若い日本代表選手たちの卓越した技術と精神力は圧巻でした。アメリカでは大谷翔平選手がＭＬＢで前人未到の記録を打ち立て、世界中を熱狂させました。彼の活躍は私たちだけでなく多くの子どもたちに夢と希望を与えたことでしょう。

さて、七月下旬に開催した同窓会総会では、平成五年度卒業の実行委員の皆さんに協力をいただき、久しぶりに懇親会も開催しながら盛会のうちに無事終えることができました。

今年令和七年は宮城教育大学創立六十周年を迎えます。同窓会でも二十年ぶりに『卒業生名簿』を編集・発行することを決め、現在会員の皆様の住所等と名簿登録の確認作業を進めているところです。すでにハガキや電話での連絡があった方も多いと思います。もしまだ連絡がない場合は、現在お住まいの住所等が更新されていない可能性がありますので、ぜひ同窓会ホームページにアクセスしていただき、データ更新をお願いいたします。左側のＱＲコードからアクセスできます。

最後になりましたが、同窓会活動は皆さまからの会費によって成り立っています。未納の皆さまにおかれましては、ご協力くださいますようお願いいたします。末筆ながら、同窓生の皆さまの日ごろのご支援に感謝いたしますとともに、皆さまのご健康とご活躍を心よりお祈り申し上げます。

事務局長　沼倉　学
（平成九年度卒）

同窓会
ホームページ

同窓会
データ更新

同窓会費納入先
郵便振替
02240−2−34558
宮城教育大学同窓会
同窓会費：八、〇〇〇円（終身会費）

恩師訃報

植木田　潤先生（発達障害学）令和六年十二月十四日
松本　宙先生（本学名誉教授 国語学）令和六年十二月十五日
が、ご逝去なされました。ここに謹んで哀悼の意を表します。

編集後記

今号より編集長を務めております。期待と不安が入り混じる心境ですが、皆様のご協力のお陰で、無事に第36号を発刊できました。心より感謝申し上げます。

今年度は、５年ぶりに16ページに増ページされたことで、より充実した内容の会報となりました。特集では、新たに完成した学生寮「青葉こもれび寮」について深く掘り下げて紹介することができました。新たな寮と昔の寮の様子を知るにつけ、様々な違いがあることが分かりました。しかし、それらの違いを越えて、時代が変わっても、寮の仲間と語り合い高め合う姿は変わらないということを強く感じました。

また、今回新たな試みとして、「フレッシュ先生だより」というコーナーを設けました。このコーナーでは、教員として活躍されている「若手」卒業生の近況を紹介しています。大学で得た学びや経験を活かして、教育現場で奮闘されている姿は、後輩たちの大きな励みになるはずです。

次号以降も、より充実した内容の会報をお届けできるよう、編集委員一同、精一杯努めて参ります。ご感想などお寄せいただけると幸いに存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

編集長　千葉　廣
（宮城教育大学附属小学校　勤務）

【編集委員】
橋本　俊一（昭和48年度卒）
末永　精悦（昭和53年度卒）
鈴木　朝二（昭和53年度卒）
加藤　良樹（平成 6年度卒）
野中　映里（平成10年度卒）
近藤　ゆき（平成13年度卒）
早坂　美幸（平成15年度卒）
千葉　廣（平成24年度卒）

同窓会報がWebページに移行しています

第３２号から同窓会報はＷｅｂページの閲覧になりました。
宮城教育大学Ｗｅｂページのメニューからご覧ください。
URL▶ https://sites.google.com/staff.miyakyo-u.ac.jp/yamaniarite/home